

# 「学ぶ力」を支える三つの資質・能力

「学ぶ力」の育成を目指すためには、教科等の目標及び内容を基に学習を構成し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力をバランスよく育むことが欠かせない。さらに、それらの資質・能力を活用するためには、各教科の見方・考え方を働かせることも重要となる。

# 令和6年度 さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

## 自ら課題を見付け、自ら学び、 自ら問題を解決する資質・能力

# さっぽろっ子に育みたい共通の資質・能力

「学ぶ力」は学校教育全般を通して育成

※「学ぶ力」の定義の「自ら」には「自分で」に加えて、「自分たちで」という意味も含まれる。

## 「学ぶ力」の育成に向けた五つのポイント

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようになります。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようになります。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

## 各学校が「学ぶ力」育成プログラムを作成し実行

「学ぶ力」の基盤

### 協働を通して磨く相互承認の感度

#### 子ども一人一人の主体性を大切に多様な学びの実現 ～学びのコントローラーをもっているのは子ども自身～

#### 子どもが「～したい」を実現する主体的な活動の実現

重点

- AARサイクルの視点で捉え直した課題探究的な学習の推進
  - ・課題を自分ごとと捉えるイントロダクションの充実
  - ・自己選択・自己決定できる個別探究の充実
  - ・他者を求め対話によって思考を再構築する協働探究の充実
  - ・成長や学びの進捗を自覚できるリフレクションの充実

- 分かる・できる・楽しい授業づくりの充実
  - ・個に応じた指導（子ども視点では個別最適な学び）
  - ・多様な他者との協働を通して、よりよい学びへ（協働的な学び）
- 札幌市教育課程編成の手引の活用
  - ・指導と評価の一体化



- さっぽろっ子自治的な活動の推進  
さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく自治的な活動の充実
  - ・自分たちの意思を実現する
  - ・自分たちの問題を自分たちで解決する
  - ・自分たちの行動に責任をもつ
  - ・一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる

- 自治的な活動の意義等を家庭・地域と共有し、子どもの学び・成長を支える
  - ・コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、熟議を進めいく中で、子どもの思いや願いを受け止め学校運営に反映

### 札幌市教育研究推進事業

- 分かる・できる・楽しい授業に関する研究の推進

### 札幌市研究開発事業

- 「学ぶ力」の育成の研究推進校による提案

### 教育課程研究協議会

- 「学ぶ力」の育成に向けた授業改善や学校教育の在り方を協議

### 学びの質を高めるICTの効果的な活用

- 子どもが端末を自ら活用する機会の充実
- 日常的な端末の活用の推進

重点

### さっぽろっ子サミット

- 子ども運営委員会による企画・運営

### 「人間尊重の教育」フォーラム

- 「人間尊重の教育」推進事業の報告、共有

### 子どもの自己評価を生かした検証改善

- 札幌市全体の共通指標として、「学習などについてのアンケート」と「ICTの活用についてのアンケート」を実施することで、子どもの学習やICTの活用状況等を把握し、教育施策や各学校の取組に反映する。

「何のために」を考える場の創出

自己決定の場の創出

相互理解を生み出す対話の場の創出

## 社会に生きて働く「本物の経験」を生み出す

学びの見通しをもつ場の創出

直接体験の場の創出

失敗から学べる場の創出

## 札幌市学校教育の重点の基盤 人間尊重の教育

## 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり

### 学校・家庭・地域をつなぐ さっぽろっ子三つの「ススメ」

三つの「ススメ」を活用し、学校・家庭・地域が連携・協働して、子どもを支える教育環境の充実に向けた取組を推進できるよう、子どもへの働きかけなどを具現化して発信していく。

小中一貫したつながりのススメ

「学び」のススメ

ICT活用のススメ



課題探究的な学習

自治的な活動

国際的な学力調査から明らかとなっている日本の子どもの学力状況も踏まえつつ、全国学力・学習状況調査結果等の各種調査結果を総合的に分析し、札幌市の子どもの「学ぶ力」について、**札幌市の成果と課題**をまとめた。

# 札幌市における子どもの「学ぶ力」の現状

## ■札幌市における全国学力・学習状況調査の傾向

### 令和5年度全国学力・学習状況調査

小6、中3が対象（令和5年4月実施）  
小学校調査は、国語、算数  
中学校調査は、国語、数学、英語

【小学校】 ⇒国語、算数のいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」  
【中学校】 ⇒国語、数学、英語のいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」  
※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

- ◆教科に関する調査において、国語では、小学校は「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、中学校は「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」、算数・数学では、小学校は「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること」、中学校は「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明すること」、英語では「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと」などの問題で、正答率が低く無解答率が高い。
- ◆自分の考えをまとめる活動を通して、子ども一人一人が自らの学びを関連付けたり、自らの変容を振り返ったりする機会を、一層充実させる必要がある。

## ■札幌市の子どもの学習習慣と学習意欲

### 令和5年度全国学力・学習状況調査

■自分で計画を立てて勉強している子どもの割合は、小学校、中学校ともに、前回調査と比べ減少している。



■自分にはよいところがあると思う子どもの割合は、小学校、中学校ともに前回調査と比べ増加している。



■将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、小学校で前回調査から増加傾向にあり、中学校では横ばいである。



■小学校5年生まで（中学校1、2年生のとき）に受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた子どもの割合は、小学校は増加し、中学校は減少傾向にある。



■学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる子どもの割合は、小学校、中学校ともに、当初値と比べ大きく増加している。



■学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた子どもの割合は、小学校、中学校ともに、前回調査と比べ減少している。



- ◆家庭での学習習慣については、意欲を高める関わりを一層行うとともに、生活習慣・運動習慣等と併せて改善を図ることが課題。
- ◆子どもは他者と対話することの価値を実感しつつあるものの自ら学んだことを関連付けたり自らの変容を振り返ったりする機会の創出が必要である。
- ◆子どもが課題を自分ごととして捉え、解決に向けて追究していくことができるよう、一層子どもが主体となる学びを実現していく必要がある。

## ■国際比較による日本の子どもの学力

### TIMSS2019 国際数学・理科教育動向調査

小4、中2が対象  
算数・数学、理科の  
知識・技能の習得状況

【小学校】算数5位(58か国中)、理科4位(58か国中)  
【中学校】数学4位(39か国中)、理科3位(39か国中)

「小・中学校ともに国際的に見ても引き続き高い水準を維持している。前回調査に比べ、小学校理科では平均得点が有意に低下している一方、中学校数学では平均得点が有意に上昇している。」

「算数・数学、理科について楽しい、得意だと思ふ児童生徒の割合が増加し、数学、理科を使うことが含まれる職業につきたいという生徒の割合が増加。」(文部科学省資料から抜粋)

### PISA OECD生徒の 学習到達度調査

15歳が対象。義務教育修了段階で身に付けた知識や技能を実生活の様々な場面でどの程度活用できるか。

#### ■数学的リテラシー

数学的に推論し、現実世界の様々な文脈の中で問題を解決するために数学を定式化し、活用し、解釈する個人の能力

2018年 6位(79か国・地域中) **2022年 5位(81か国・地域中)**

#### ■科学的リテラシー

思慮深い市民として、科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力

2018年 5位(79か国・地域中) **2022年 2位(81か国・地域中)**

#### ■読解力

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと

2018年 15位(79か国・地域中) **2022年 3位(81か国・地域中)**

- 数学的リテラシー及び科学的リテラシー、読解力3分野全てにおいて前回調査より平均得点が上昇。
- 読解力、科学的リテラシーにおいて低得点層の割合が有意に減少し、数学的リテラシー、科学的リテラシーにおいて高得点層の割合が有意に増加。(文部科学省・国立教育政策研究所から抜粋)

質問項目は「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを中心に分類しています。(小中学校全学年を対象に実施し、小5、中2のデータを掲載)

令和5年12月実施

学習などについてのアンケート 集計 (令和5年度)			
質問		小学校	中学校
■相互承認 (自己承認、他者への承認、他者からの承認)			
1	自分にはよいところがある。	81.1%	78.8%
2	人のよいところを見付けようとしている。	85.4%	88.8%
3	自分が必要とされていると感じる。	63.9%	63.0%
4	人の役に立ててうれいと感じることがある	92.1%	92.0%
5	人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.1%	92.3%
■「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
6	自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。	71.1%	73.8%
7	自分の目標をもって生活している。	75.3%	67.7%
8	疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。	78.5%	79.9%
9	自分の意見を進んで発言しようとしている。	60.7%	51.1%
10	意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。	76.9%	78.3%
11	分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。	85.2%	82.2%
12	学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。	82.4%	76.9%
■意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
13	新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。	78.2%	72.7%
14	意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている。	74.8%	77.1%
15	意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。	69.4%	72.8%
16	人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。	84.6%	87.7%
■自分の「伸び」を実感して新たな目標をもつ 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
17	振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある。	72.8%	72.0%
18	振り返ったことを、次に生かそうとしている。	78.9%	81.1%
■生活を自らコントロールする力 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
19	1日の時間の使い方を自分で考えて生活している。	68.7%	61.7%
20	自分で計画を立てて勉強している。	64.9%	51.6%
■難しいことにも挑戦する意欲 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
21	分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている。	73.2%	71.8%
22	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	81.8%	80.8%
23	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。	69.6%	63.0%
■その他			
24	読書は好きである。	75.2%	69.3%
25	先生方は、自分が安心して学習に取り組むことができるよう、支援をしてくれる。	88.0%	86.6%
26	家の人や地域の人に認められたり、支えられたりしていると感じることがある。	80.6%	80.9%
27	自分の学びや成長に学校以外の様々な人(家の人は含みません)が関わっていると感じている。	76.4%	78.7%
28	先生や家族以外にも、カウンセラーや相談窓口など、必要なときに悩みを相談できる大人がいる。	54.6%	54.2%
29	自分が学ぶ場所は、ケガをしたり事故が起きたりしないよう、安全が守られている。	88.0%	89.1%
30	健康診断の結果等から、自分の体の成長や健康状態を知っている。	81.1%	81.2%
31	健康のために、自分には何かが必要かを考えて生活しようとしている。	77.8%	76.4%
32	「札幌っていいな」と感じることがある。	90.1%	86.2%
33	文化、スポーツについて、参加できる環境がある。	82.6%	84.8%
34	(ALTとの活動など)外国の人と関わることが楽しいと思う。	79.6%	78.1%

※数値はいずれも「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」など、肯定的な回答の割合を示している。

ICTの活用についてのアンケート 集計 (令和5年度)			
質問		小学校	中学校
■学ぶ意欲			
1	端末を使うことで、勉強がおもしろい、楽しいと思うことがある。	87.6%	82.2%
■「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
2	疑問や課題を解決するために、端末を使って自分なりに調べようとしている。	83.7%	87.4%
3	端末を使った交流で気付いたことを自分の学習に取り入れようとしている。	76.6%	77.9%
4	端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている。	69.8%	68.6%
5	端末を使う活動で、友達の意見を進んで知ろうとしている。	81.4%	83.3%
6	家庭で端末を活用することで、学習が充実している。	74.8%	68.5%
7	プログラミングの学習では、繰り返し試しながら改良していくおもしろさを感じる。	73.8%	66.9%
■意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
8	端末のアプリケーションを自分で選んで、学習を進めている。	74.7%	65.9%
9	端末のアプリケーションを使うことで、いろいろな表現をすることができるようになったと感じる。	78.2%	74.6%
■自分の「伸び」を実感して新たな目標をもつ 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
10	学習の中で端末を使うことは、勉強の役に立つと思う。	91.9%	88.6%
11	端末を活用することで生活をもっと豊かにすることができると思う。	84.3%	85.6%
■生活を自らコントロールする力 【「学ぶ力」育成の5つのポイント】			
12	端末やスマホ等のICT機器を使うときは、夜遅くにならないなど、時間帯に気を付けて使っている。	69.9%	60.9%
13	授業以外で端末を使うときは、時間が長くないよう、使う時間の長さを自分で決めている。	63.9%	56.4%
14	端末・アカウント (ID) ・パスワードを適切に取り扱っている。	91.6%	93.2%
15	情報の正しい活用の仕方を考えて端末を使っている。	90.5%	93.3%

「」: 学習など 「」: ICTの活用

成果・課題と次年度の方向性

【着眼点①】相互承認 (自己承認、他者への承認、他者からの承認)

「1」「3」の自己承認に係る項目については、昨年度より肯定的な回答の割合が増加したが、「2」「4」「5」の項目に比べると肯定的な回答の割合が低い。子ども一人一人が自分のよさや可能性に気付いていくことが引き続き課題である。相互承認の感度を磨くため、相互理解を生み出す対話の場の創出が必要である。

【着眼点②】ICTの活用と協働的な学び

「8」「9」の項目において昨年度より肯定的な回答が増加し、ICTの効果的な活用が着実に進んでいる一方で、「9」「15」「4」の項目は、肯定的な回答の割合が引き続き低く、「10」の項目については、昨年度より肯定的な回答が減少している。子どもが自分の思いや考えを表現し合う機会の創出とともに、他者の考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりする協働的な学びを充実させていく必要がある。

【次年度の方向性の視点】協働を通して相互承認の感度を磨く

【着眼点③】子どもたちを支える教育環境の充実

「19」「20」「12」「13」の項目においては、肯定的な回答の割合が低い。子どもが生活を自らコントロールする力に係る項目に引き続き課題が見られる。また、「25」～「28」の回答から、子どもが思いや願い、悩みや困りを、大人に伝えやすい体制を一層整えていく必要がある。

【次年度の方向性の視点】多様な人との関わりの中で、子どもを育む

【次年度の方向性】多様な人との協働を通して相互承認の感度を磨き、子ども一人一人の主体性を大切にした多様な学びを推進